

平成 23 年度公益社団法人第 1 回理事会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 23 年 12 月 22 日 (木)
午後 2 時 05 分から午後 5 時 35 分
2. 開始場所 東京大学理学部 1 号館 843 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 19 名
出席理事 15 名 (定足数 10 名 会議成立)
出席監事 1 名
オブザーバー 1 名
4. 議長 理事 木村 学
5. 出席役員 理事 木村 学
理事 津田 敏隆
理事 濱野 洋三
理事 大村 善治
理事 高橋 幸弘
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 佐藤 薫
理事 小口 高
理事 西 弘嗣
理事 川幡 穂高
理事 大谷 栄治
理事 富樫 茂子
理事 古村 孝志
理事 畠山 正恒
監事 松浦 充宏
6. 出席オブザーバー
宇宙惑星科学セクションプレジデント 永原 裕子

午後 2 時 05 分、会長木村学は議長席に着き、開会を宣し、議事に入った。

資料訂正：P30（誤）プレス発表ないし記者会見を月中旬

（正）プレス発表ないし記者会見を 1 月中旬

P65（誤）2）今年度は、連合個人会員を対象にウェブフォームによるアンケート調査を実施するなど、ご男女共同参画委員会を中心に活発な活動を行った。

（正）2）今年度はキャリア支援委員会と合同で、連合個人会員を対象にウェブフォームによるアンケート調査を実施するなど、男女共同参画委員会を中心に活動を行った。

6. 報告事項

(1) 公益法人化報告（資料 P1-7）

12 月 1 日、川幡理事、谷上、鈴木弁護士で内閣府にて認定を受け、法務局に届け登記完了した旨報告があった。基本的に公益以外の事業はないので、8 月 12 日に書類提出してから大変スムーズに認定を受けることができた。「公益」から派生するさまざまな意味を具体的に実行する段階にきた。例えば寄付などについても、寄付側、寄付を受ける側、側双方に大きなメリットができたことになる。又、「新規認定の場合は総会開催の必要がない」とのことから総会の開催は見送られることとなった。3 月中旬までに必要な手続きは 24 年度予算（財務委員会）、24 年度事業計画（総務委員会）の作成となる。

(2) 義捐金関連報告（資料 P8-11）

畠山理事より 2011 年大会終了時義捐金 1,990,577 円の内、約 41 万円宮城県市立古川東中学校に支援済との報告があった。又、11 月に畠山理事、谷上、白井で東北視察に行き、石巻市の教育委員会に行った際、被災校のリストを入手したり、岩手、宮城、福島 3 県の被災地町村の教育委員会に直接電話連絡をするなどして、被災校をリサーチし電話、ファックスにて各校に連絡をとったところ、概算 800 万円程度の支援要請が寄せられている旨、報告があった。

(3) 2012 年大会準備報告（開催セッション確定、展示企画受付状況、ポスターデザイン）

（資料 P13-24）

ポスターデザインが決定し、すでに大学、後援団体に送付した旨谷上より説明があった。スマートデバイスアプリ開発代として 100 万円程度今年度中に使用できるならば開発したい旨、谷上より要請があった。今年度に開発するのはよいが、目に見えるようにするのは会費値上げをする来年度以降、サービスの向上のセット項目にいれるという案に対し、理事会として認識が一致した。浜野運営委員長より 2012 年大会は 179 セッション、国際 43 セッションで確定して予定通り 1 月 11 日より投稿開始予定である旨報告があった。会場は 2011 年大会同様、大体フル活用となる見込みで、これ以上増えると別の方法を考える必要がある。AUG は e-poster で対応していた、との報告もあった。

(4)委員会報告

1)男女共同参画委員会、キャリア支援アンケート結果（資料 P25-29）

富樫理事より会員の女性比は少しずつ増加していること、キャリア支援委員会および男女共同参画委員会の共同で実施したアンケートの解析結果については結果が出次第 Web 上で報告する予定であることが報告された。

2)国際委員会 AOGS-WPGM 2014, AGU President elected, Director との懇談、MOU 締結

1. AOGS-WPGM 2014 2014 年

AOGS 2014 札幌開催に関して、AOGS 側は資金的には連合に期待はしていないが、主体的にかかわってほしいと希望している旨説明があった。次回理事会時、12月14日に北大にて行われた加藤国際学術委員長代理、渡部重十、高橋幸弘、倉本圭（敬称略）による話し合い議事録を元に具体的に議論することとなった。

2. AGU President elected, Director との懇談、MOU 締結

AGU 会期中に木村会長・大谷副会長、加藤現国際学術委員長代理、ウォリス次期国際学術委員長が AUG の President-elect と Director と昼食会にて連携について話し合いをもった旨報告があった。AGU 側は WPGM の経験上、アジアの国とはうまくいくという経験値があるので社会に対する発信を一緒にしようということになり、MOU 締結をすることで合意した。詳細は年明けにひな形が送られてくる予定である。会費など差がありすぎるので工夫をする余地があることも確認された。

(5)学術会議報告（資料 P34）

永原セクションプレジデントより平成 25 年度からの科研費成果公開促進費の大改定が予定されている旨報告があった。

(6)学術振興会学術出版助成の全面改訂について、ジャーナル検討の進捗について

（資料 P35-55）

学術振興会学術出版助成が全面的に改定される予定であり、12月27日に説明会が開催される。電子出版・オープンアクセスがポイントとなっており、来年度審議開始、再来年度スタート予定。この説明会に川幡理事が出席し、結果を報告することになった。

大谷副会長よりジャーナルに関し、シュプリンガーとの交渉状況の説明があった。

シュプリンガーから条件変更の要請があり、シュプリンガー本部とユーロ建てでやりたい、契約も本部と英文で、1論文1,200ユーロ最低年間30件で36,000ユーロという条件を提示された旨説明があった。

(7)その他

田近理事より日立環境財団と一般市民向けのアウトリーチ活動の協力連携することで合意し、当面は日立環境財団が主催するサイエンスカフェに連合から講師と話題をアレンジして提供することになった旨報告があった。

15:55 報告事項終了後 一時休会

16:05 再開

7. 審議事項

第1号議案 連合・地球化学会、放射化学会連携

福島第1原発事故環境汚染大気サンプリングについて（資料 P30-33）

茨城大学 北和之先生より 2012 年 1 月中旬に福島第1原発事故環境汚染大気サンプリングに関するプレス発表もしくは記者会見を日本地球惑星科学連合・地球化学会、放射化学会と連携で行いたいとの申し出があった。

議論の結果、社会的意義のあることなので基本的には進めることが確認されたが、対外対応の窓口を一本化すること、責任者は2名体制とし、専門的な細部まで対応できる体制を確保すること、リスクマネージについて厳格にすること、理事会および大気海洋セクションプレジデントの密に連絡すること、を担保してもらいたいという意見が出された。

第2号議案 「全員対象の職種・年齢・性別に関するアンケート」来年度の実施提案

（資料 P26-29）

富樫理事よりポストクのアンケートは積み重ねることにより客観的なデータとして意味を持ち、それを見極めて初めて迅速な対応をすることができるので来年度もキャリア支援委員会および男女共同参画委員会の共同で同様なアンケートをすることが提案され、2012 年大会時も実施することが満場一致で可決された。費用については万が一かかる場合でも今年度の残りのできることに、内容は若干改善する予定であり、はっきりした段階で報告されることが説明された。

第3号議案 義捐金関連の今後の方針確認（資料 P8-11）

今年度内に現在の義捐金残の 1,540,714 円は支援を完了し、足りない分に関しては引き続き、HP 上で義捐金を募りつつ、2012 年大会でも義捐金募集を呼びかけることとなった。又、他の理数系学会にも声掛けをしたり、実験器具は余っているところから回せるものは回してもらおうようにするなどの方法も検討することとなった。

第4号議案 連合戦略再構築連続会議・役員推薦委員会設置、選定日程の確認及び役員候補者推薦委員会規則変更の件

（資料 P56-59）

木村会長より、戦略、戦術の整理をして実行できる組織体制の必要性が説明された。

1 月から 5 月に話し合いをし、人事を決めていくことが確認された。会長、副会長でテーマの整理をし、必要に応じてケースバイケースでプレジデントも含め参加を呼びかけ議論することとなった。

大村理事より役員候補者推薦委員会規則の改正案について説明があった。定款と役員候補者推薦委員会規則が食い違うので上位法規定を順守し、役員候補者推薦委員会規則第 10 条を削除し、附則をつけることになった。これが理事会承認で改正できるかどうか鈴木弁護士に確認し、了解ができれば改正されることが満場一致で可決された。

第5号議案 ジャーナル検討の今後について

学術振興会学術出版助成金をうまく利用したらよい、という意見がでる一方、しぼりができてしまうことと、補助金がなくなった場合の資金源が問題となるという意見もでた。

補助金がなくともできる体制を作っておいて、補助金がもらえたらその分を他の予算にあてる、という形を作っておくことが大切であるということで意見が一致した。川幡理事の学術振興会学術出版助成報告も考え併せながら再度、一からジャーナルの編集体制、レビューのみでよいのか、というところから議論をしていくことが確認された。

第6号議案 法人化後の日程確認、11月末決算書案・事業報告書案（資料 P60-77）

西理事より収支の結果、余剰金が出る予定なので必要な経費があれば2月末までに計上するよう、要請があった。今後のジャーナルの方針を見極めながら3月26日までに財務委員会で24年度予算を作成、総務委員会で24年度事業計画を作成することが確認された。12月の決算では会計監査はいらぬことも確認された。

第7号議案 会費未払い会員処理検討について

西理事よりID数は7000人、未払いが2533人いることから、毎年実質連合会員は5000人程度であると説明があった。今後の会費徴収の方針を決める為にもドクターとマスターの比率の統計をとる必要があるため、次回の大会で統計をとることを総務委員会で検討していくこととなった。併せてクレジットカードに継続性を持たせることで年会費の自動的継続徴収することも検討していくこととなった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（午後5時35分）
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成23年12月22日

一般社団法人日本地球惑星科学連合 公益社団法人 第1回理事会

出席理事 木村 学 印

出席理事 津田 敏隆 印

出席理事 濱野 洋三 印

出席理事 大村 善治 印

出席理事 高橋 幸弘 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事 中村 正人 印

出席理事	佐藤	薫	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	大谷	栄治	印
出席理事	富樫	茂子	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	畠山	正恒	印